

デンタルアライナー

治療のヒント

Part 2 仮想症例で学ぶ治療シナリオ

Tips on Dental Aligner
Orthodontic Treatment

Tzee Jen Tan
高田健治



はじめに

本書のVol.1「治療プランニングと装置の設計」では歯科臨床にデジタルアライナーが導入したことの影響、適応症、治療プランの立て方、実際の設計手順など歯科医師が知っておきたい事柄について解説した。

Part 2「仮想症例で学ぶ治療シナリオ」では、アライナーによる矯正治療の手順を仮想的に用いたシナリオをベースに症例形式で解説する。

Table of Contents

Part 2 仮想症例で学ぶ治療シナリオ

Section 5 治療シナリオ

- 仮想症例01 II級1類・叢生・過大なOJとOB
- 仮想症例02 III級・叢生・非抜歯
- 仮想症例03 I級・叢生・埋伏大白歯・ハイブリッド治療
- 仮想症例04 機能性反対咬合・叢生・正中のずれ・青年期
- 仮想症例05 II級1類・過大なOJとOB・正中離開
- 仮想症例06 II級2類・下顎骨の後退・顎整形手術
- 仮想症例07 II級1類・過大なOJ・叢生 下顎切歯の先天欠

仮想症例 01



図1 初診時第一・第二顎、上顎顎と右側顔面



図2 歯列



仮想症例 02



臨床像 (図6)

1. 歯列後傾
2. 歯列の傾きが異なる
3. 歯列の傾きの付随咬合
4. 咬合部が咬合の発生

アタッチメントの選択と歯の矯正移動のシミュレーション (図3, 4)

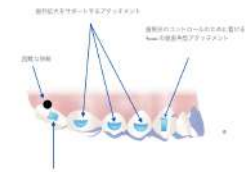


図3 歯列のコントロールするアタッチメント

歯列のコントロールするアタッチメントは、歯列の傾きを矯正するための重要な役割を果たす。



図4 アタッチメントの選択と歯の矯正移動のシミュレーション

アタッチメントの選択と歯の矯正移動のシミュレーションは、治療計画の重要な要素である。